

授業科目名	経営学特講（会計・経営情報の活用）（経営学部・専門科目）	必修の区分	
単位数	2.0	開講年次	
講師名	火原 克二	所属	経営学部
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>講義目的は、財務諸表・会計情報そしてその国際化の基本的事項を理解するとともに、実務における会計・経営情報の活用・分析手法等に関する理解をする。その到達目標は、会計経営情報に関しての方向性および実務的な分析側面の基本的理解を得ることにある。なお、実務家の講師が多いことから、キャリアガイダンスの側面を兼ねることとする。</p>		
講義内容・授業計画	<p><b>講義内容</b>  会計の基本構造と国際化に関する理解をするとともに、実務において、企業のミクロ・マクロおよびデリバティブの視点から、会計・経営情報の利用そして分析手法の例等に基づき、その役割等を理解することとする。併せて、実務家の講師であることから、キャリアガイダンス（その職業選択の理由、就職後の経験そして就職後に必要とされるもの）の一端に触れることとする。</p> <p><b>授業計画</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、財務諸表と会計情報(1)</li> <li>2. 財務諸表と会計情報(2)</li> <li>3. 会社四季報とは</li> <li>4. 会社四季報の使い方、業務予想の建て方</li> <li>5. 企業の賃金支払い能力と採用戦略～持続発展可能な企業をめざして～（1）</li> <li>6. 企業の賃金支払い能力と採用戦略～持続発展可能な企業をめざして～（2）</li> <li>7. 取引構造分析による産業分析・航空機産業参入モデル</li> <li>8. 新産業分析手法（リチウムイオン2次電池など）</li> <li>9. 企業の仕組み（組織、収益構造、投資プロセス）</li> <li>10. 投資分析手法：デューデリジェンスの実際と評価 <ol style="list-style-type: none"> <li>11. 財務諸表の国際化</li> <li>12. セクター別（オフィス、リテイル、ホテル、レジデンス）評価特性</li> <li>13. 事例研究： ディベロッパーによる複合開発（シンガポール）、投資ファンドによる開発型オフィス投資（大阪）等</li> <li>14. Post Investmentの管理：アセットマネジメントとプロパティマネジメント</li> <li>15. 不動産投資分析手法でみた都市力評価（神戸を事例として）</li> <li>16. 評価</li> </ol> </li> </ol>		
テキスト	講座全体におけるテキストは使用しない。		
参考文献	講師によって、適宜指示がある。		
成績評価の基準	評価の詳細は、初回講義時に説明する。		
履修上の注意・履修要件	受講生は、必ず出席をすること。		
備考	本講義は、「阪本安一先生記念講座」による事業の一部として、複数の講師によって講義される。実務家の講師の事情により、変更がある可能性があることから、掲示には注意しておくこと。		